

式辞

柔らかな春の風と光に包まれ、校庭の桜が、開花を今か今かと待ちわびています。新しくすべての命が輝くこの春のよき日に、新たなステージへ巣立つ時を迎えた百二十三名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんの卒業をお祝いするため、ご来賓の高倉会会長様、PTA会長様をはじめ、保護者の方々がご出席くださいました。まだまだ先行き不透明な現在の状況の中、皆様のご理解とご協力のもと、人生の節目となる大切な式を行えますことに、安堵の気持ちと感謝の気持ちでいっぱいです。本校に関わる全ての皆様に心より御礼申し上げます。

先ほど、卒業生代表の四名の手に、心を込めて卒業証書をお渡ししました。皆さん一人一人が自分で作った手書き和紙の卒業証書、これは、ここ高倉小学校で学んだ証しとなるものです。本来は、一人一人全員の手にお渡しするところですが、残念ながらそれが叶わなかったこと、どうぞお許してください。担任の先生が名前を呼ばれて返事をする皆さんの顔を一人一人見ながら、これまで六年間のいろいろなことが思い出されました。皆さんが低学年のとき、クラスで相談事があった時に、よく2階の教室まで上がってきて、教材室の中で話を聞いたり伝えたりしたことを思い出していました。とても素直で聞き分けのいい皆さんでした。いつまでもかわいいと思っていた皆さんは、順調に成長し、一年前、五年生のときには、高倉校舎の最高学年として下級生を引っ張ってくれる、とても頼もしい姿をいつも見せてくれました。コロナ禍でも工夫して活動できるように、「なかよしあいさつリレー」を考え、上級生と下級生が一緒にあいさつ運動に取り組めるようにしてくれました。そして、何よりも、児童会の運営委員の皆さんが中心となって、全校の皆で作った「あいさつ横断幕」。自分たちで考えて実現できた横断幕は、何でも前向きに頑張る皆さんの象徴とも言えるものです。高倉小学校の宝物として、ずっと大切にしていきたいと思います。そして、六年生になり、京都御池創生館での小学校最高学年としての生活。コロナ禍の中、日々の生活や行事など、我慢をしてもらうことが多かったのですが、常々落ち着いた態度で、成長を遂げている姿を見せてくれました。高倉校舎で過ごすことは、ほとんどなかったのですが、それでも、一年生との交流やオンラインで見せてくれた下級生を思う優しい姿に、一年生から五年生のみんなは、六年生のことが大好きでした。「六年生を送る会」に向けて、下級生一人一人が、大好きな六年生に喜んでもらおうと、一生懸命に鉛筆メダルを折り紙で作ったり、メッセージを書いたり、思いを込めて歌を作ってプレゼントしたりしていました。下級生の憧れの六年生、そして、高倉校自慢の六年生。私は、校長として皆さんのことをとても誇りに思います。

そのような皆さんに、卒業にあたり、私からのメッセージを送りたいと思います。

皆さんがこれから拓く、広い世界に出ていくドアの向こうの未来は、高度情報化の時代です。多くの人々が高速で移動しネットでつながり、現在のような未曾有の感染症などの流行、自然災害や環境の変化、国々の争いや急激な経済の変動などが世界規模で起こり、地球全体の現象として現れます。皆さんが歴史で学んできたように、これまでわが国は、島国で独自の文化を育ててきましたが、今はグローバル化する世界の中で、さらに外の世界とつながり、自分の立場をしっかりと確立しながら他国との関係を築いていく、そのようなことが求められていきます。国や文化が違えば、行動の仕方や考え方、感じ方もそれぞれです。でも、その違いこそが世界を豊かにしているのだと思います。皆さんには、自分とは違った異文化をも受け入れられる広い心と見識

を身に付けてほしいと願っています。そして、これからの時代を担う皆さんには、平和で安心して誰もが可能性を伸ばすことができる世界にしていってほしいと願います。そのために、皆さん一人一人が自分自身を磨き、自分のよさや強みを発揮し、周りの人たちとの繋がりを広げ深めていってほしいと思います。皆さんは、この高倉小学校で、そのような姿を身に付けてきました。ぜひ、自信をもって、新しい社会に、広い世界に向けて力を発揮していってほしいと思います。私たち高倉小学校の教職員は、皆さん一人一人の可能性を信じています。

皆さんの今日までの成長の陰には、ご家族の溢れる愛情、ご苦労があったことも忘れてはなりません。地域やPTAの方々、学校の教職員の方々、そして、いつも一緒だった友だち。多くの人々に支えられ、励まされ助けられたことを思い、感謝の気持ちをもち続けてほしいと思います。その気持ちは、いつも皆さんの力になるものです。そして、皆さんが育ってきたこの高倉の地域、高倉小学校がいつまでも皆さんの心のふるさとであることも忘れないでほしいと思います。

保護者の皆様に、一言お祝い申し上げます。お子達のご卒業、誠におめでとうございます。これまで愛情を注いで育ててこられたお子達の今日の晴れの姿に感慨もひとしおかと存じます。これからお子達は、人生の中で最も多感な時期にさしかかります。今後も、ご家族の絆をしっかりと結び付け、温かく見守っていただきますよう、お願いいたします。これまでの六年間、高倉校の教育に対して温かいご理解とお力添えを賜りましたことに心より感謝申し上げます。私たち教職員は巣立っていく百二十三名の子どもたちをいつまでも見守り応援し続けます。お子達の一層の活躍と幸せを心より祈念いたしております。

最後になりましたが、本日ご来賓代表の高倉会会長様、PTA会長様には、ご多用の中、ご臨席賜り、百二十三名の門出を祝福していただき、誠にありがとうございました。高いところからではありますが、厚くお礼申し上げます。また、本日ご臨席かないませんでした地域の皆様、PTAの皆様方、関係者の皆様方、皆様方の六年間の温かい見守りのおかげにより、無事今日の日を迎えることができました。本当にありがとうございました。今後も、この高倉校区の子どもたちを温かく見守っていただきますよう、心よりお願い申し上げます。

卒業生の皆さん、今日はお別れの日ではありますが、未来への新しい一歩を踏み出す旅立ちの日です。自分を信じて、輝かしい未来や夢に向かって大きく羽ばたいてください。

以上をもちまして式辞といたします。

令和四年 三月二十三日

京都市立高倉小学校 校長 野口十三枝